

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

	前回(令和5年3月)	今回(令和5年5月)	
景況判断	持ち直しの動きに足踏みがみられる	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	
鉱工業生産	弱含んでいる	おおむね横ばい	
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	

1. 鉱工業生産等の動向

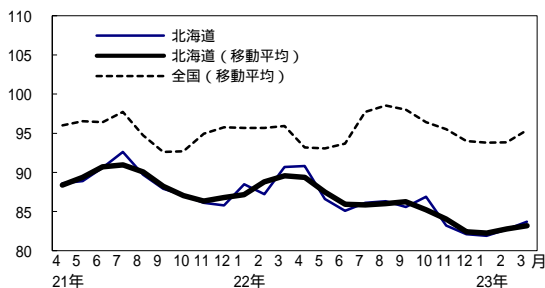
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を下回り、主な水産物の生産額は前年を上回っている。

1 - 3月期には、生乳生産は総量では1,022,564tと前年同期比5.2%減となった。主な水産物の生産額(主要9港)は、ほっけ等が増加したため、前年同期比2.4%増となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばい。

1 - 3月期の鉱工業生産は、前期比1.5%減となった。月別にみると、1月は一般機械が減少したこと等により前月比0.2%減、2月は輸送機械が増加したこと等により同1.0%増、3月は輸送機械や食料品が増加したこと等により同1.2%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
食料品	25.9	2.9	4.4	6.1	2.7	1.7
パルプ・紙	13.1	3.5	1.3	2.4	3.5	6.9
電気機械	9.1	2.5	7.7	7.8	3.5	4.6
鉄鋼	7.9	8.2	14.5	3.0	8.0	0.8
化学・石油石炭製品	7.6	11.2	11.1	11.0	16.6	1.0
鉱工業	100	2.2	1.5	0.2	1.0	1.2

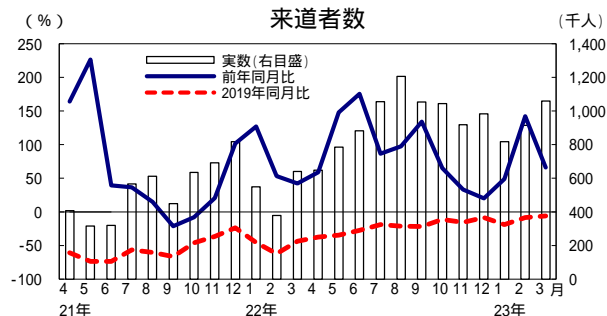
(備考) 1. 2015年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は持ち直している。

1 - 3月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比78.3%増(2019年同期比10.9%減)となった。月別では、1月に前年同月比48.9%増(2019年同月比18.7%減)、2月は同141.9%増(同8.2%減)、3月は同65.8%増(同6.2%減)となった。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

1 - 3月期は前期比1.2%増となった。月別にみると、1月は前月比0.7%増、2月は同1.1%増、3月は同0.9%減となった。

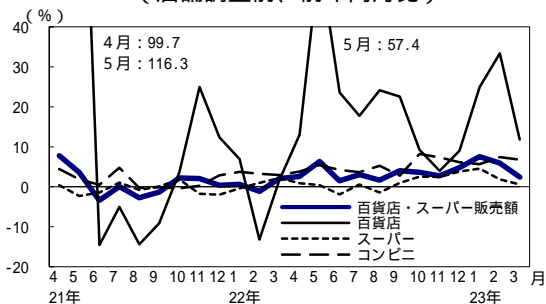
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比5.3%増となった。月別にみると、1月は前年同月比7.6%増、2月は同6.0%増、3月は同2.5%増となった。

百貨店は、1 - 3月期は前年同期比22.1%増となった。

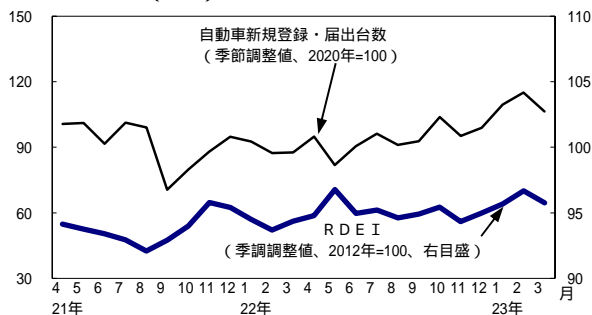
スーパーは、1 - 3月期は同2.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2023年1-3月	2023年1月	2月	3月
RDEI(消費*1)	1.2	0.7	1.1	0.9
百貨店・スーパー(*2)	5.3	7.6	6.0	2.5
百貨店(*2)	22.1	25.0	33.4	11.9
スーパー(*2)	2.4	4.6	1.9	0.6
コンビニ(*2)	6.7	5.7	7.5	6.8
乗用車(*3)	23.6	19.8	32.4	20.7
(季節調整値)(*3)	11.1	10.8	5.0	7.5

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比(%)

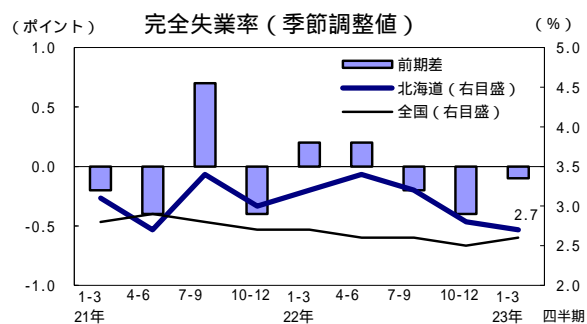
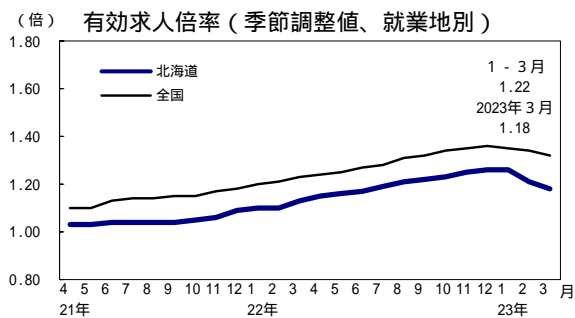
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年4月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	現状		判断の理由
	分野	判断	
現状	家計 動向 関連	○	・新型コロナウイルス感染症に関連した制限の緩和に伴って、国内外の観光客が増加しており、来客数、買上客数共に増加傾向にある（百貨店）。
		□	・来客数が増加したことで飲料や菓子の動きが良くなっているが、弁当などの主食、デザートなどは値上げの影響もあって、販売量がやや低調に推移している（コンビニ）。
		▲	・新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着くとともに、外出する人が増えている。インドアで楽しむ商材を扱っている当店にとっては厳しい流れになっている（一般小売店）。
	企業 動向 関連	□	・依然として新築住宅着工棟数が前年を下回る状況が続いている。こん包材、塗料、外注品などの値上げも止まらないため、景気は厳しいまま変わらない（金属製品製造業）。
		○	・物価高の影響はあるものの、道外観光客やインバウンドの回復に伴って、食料品製造業、小売業、卸売業、運輸業、ホテル・旅館業などの観光関連業種の売上が持ち直している。ヒアリングした企業の6割が物価上昇分の50%以上を価格転嫁できたと回答していることもプラス要素である（金融業）。
雇用 関連	○	・建設工事費の高騰に伴い、民間工事がストップし始めている（建設業）。	
	□	・例年と比べて、求人広告の掲載申込件数が僅かに減っている状況が続いている（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴 コメント	○	○：新型コロナウイルス感染症の影響による最近3年間の旅行自粛の反動もあって、徐々に団体旅行の相談が増えている（旅行代理店）。	
		▲	▲：値上がりラッシュ前の3月に商材がよく売れたため、4月は非常に厳しい結果となった。3月のあおりを受けている（その他専門店〔医薬品〕）。
	先行き		判断の理由
	分野	判断	
先行き	家計 動向 関連	○	・インバウンドや国内観光客の問合せなどが徐々に増えていること、新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になることで業務を行いやすくなることから、今後の景気はやや良くなる。行楽シーズンを迎えることもあって期待は大きい（タクシー運転手）。
		□	・現在の原価高騰の流れや、食品の値上げは今後も継続するとみられるため、必要最低限の買物で済ませるような消費動向が続くことになる。今後の劇的な来客数回復は見込めない（衣料品専門店）。
	企業 動向 関連	□	・道内全体では観光客の入込や飲食店の来客数の回復など、景況感の改善に向けた動きを感じるものの、燃料費や仕入価格の上昇が一段と進んでいる。景況感はプラスとマイナスで相殺されるため、現状からの更なる上振れは厳しく、横ばいでの推移となる（通信業）。
		○	・企業物価及び消費者物価の上昇がピークアウトする見通しであること、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴う人流拡大が見込めること、賃上げの実現により消費者マインドが持ち直すことが期待できるため、今後の景気はやや良くなる（金融業）。
	雇用 関連	□	・飲食店への人出が戻りつつある。新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行することで、人の動きがますます活発になるとみられるものの、求職者の動きが鈍いことが、景気回復への足かせとなっている（求人情報誌製作会社）。
その他の特徴 コメント	□	□：これからも日用品の値上げが予定されているため、今後も来客数の減少が続くことを懸念している（住関連専門店）。	
		▲	▲：現在の旅行需要増加による反動減が少なからず生じるとみられる。全国旅行支援など、国や都道府県が実施している各種施策の終了も今後の旅行需要減少につながる要因の1つとなる（旅行代理店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

